働き方は、ひとつじゃない。

子どもとの時間を大切にするため、トラックドライバーに挑戦

宮内工業団地にある㈱高宮運送は、女性にとって働きやすい環境を整えるため、企業主導型の保育園の設置や、県が行う運輸業の就職面接会への参加など、さまざまな取り組みを行っています。

ここでトラックドライバーとして働いている、上田愛美さんからお話を伺いました。

派遣会社と同じ希望で

子どもがまだ小さく、時間に融通が利く派遣会社で働いていることを知っていた上田さんの友人が、㈱高宮運送を紹介してくれたことが、この仕事を始めたきっかけだったと言います。

上田さんは、社長との面談で「土日祝休み、9時~17時でも大丈夫ですか」とこれまでの勤務形態と同じ希望を伝えたところ、快諾を得て、昨年の4月に入社されました。

未経験からのスタート

入社してから初めてトラックに乗ったという上田さん。道路交通法の改正で、運転免許の取得時期によって運転できる車の大きさが異なりますが、上田さんは「車両総重量8トン未満、最大積載量5トン未満」の普通自動車免許を所有していたため、新たな免許を取得することなく、4トントラックまで運転することができました。上田さんは、会社の約3週間の研修を経て、現在、2トントラックを運転し、生鮮食品や病院食、弁当など、配送先によってさまざまな食品を運んでいるそうです。

上田愛美（うえだ まなみ）さん
㈱高宮運送
ドライバー

また、手積み・手降ろしの作業はほとんどなく、でき上がった荷物をカゴ台車などで積み込むため、女性や力があまりない人でも無理せず働くことができていると上田さんは話します。

子育てとの両立

介護や育児など、家庭の事情も理解してもらえる会社のため、休みも取りやすいと、小学2年生と6歳の女の子がいる上田さんは言います。「先日も参観日と、下の子が4月から小学校に通うので入学説明会で休ませてもらいました」。子どもが熱を出したときや学校から呼び出しがあったときなど、緊急の事態があった場合も、休みを取ることができるそうです。

シフトも4時間から組むことができ、希望の時間になるように配送先を組み合わせて働くことが可能だと話します。

ドライバーを目指す女性へ

「子育てしている人にとって、トラックドライバーは就職先として視野にない業種だと思います。子どもがいても働くことができるので、ぜひ女性にも入ってきてほしいです」と、上田さんから仕事に悩む女性へメッセージをいただきました。

同席していただいた大津幾多郎（おおつ きたろう）取締役経営企画室長は「お子さんが、どれだけお母さんが頑張っているのか知ることは良いと思います。職場体験のように、親がどういう仕事をしているのか、見てもらう機会を作ることができれば」と話しました。

TOPIC 1

湯﨑知事と同盟メンバーが対談「イクボス推進トーク@廿日市」

1月21日に、湯﨑知事とイクボス同盟ひろしまに加盟している市内3社の経営者・管理職による「イクボス推進トーク@廿日市」が中央市民センターで行われました。

誰もが生き生きと働ける職場環境づくりのため、各社の取組事例の紹介やディスカッションを交えながら、今後の自社の展望を語りました。

デリカウイング㈱
細川匡（ほそかわ ただし）代表取締役会長
「『Happy Together』を実現できる会社に」

㈱高宮運送
高宮 徳和（たかみや のりかず） 代表取締役
「未経験ママドライバーの育成に取り組みたい」

(特非)キッズNPO
吉本 卓生（よしもと たくお） 理事長
「ここで一生働き続けたいと思える職場に」

自分のやりたいことと子育てを考え、フリーランスで活動

洲上聖子（すのうえ せいこ）さん
イラストレーター・デザイナー　など

結婚・出産を機に

ペンと透明水彩で描かれたイラストを机の上に広げて話してくれたのは、イラストレーターでデザイナー、ライター、イベントコーディネーターとしても活動している洲上聖子さん。元々は会社勤めをしながら絵画制作を行い、展示や絵画教室などをしていましたが、結婚と出産を機に、自分の本当にしたいこと、子育てとの両立を考え、フリーのイラストレーターを始めました。

転機は「ななづくし」の発行

よく宮島にスケッチに通っていた洲上さんは「宮島にいる面白い人たちを紹介したい」と思いを募らせ、平成27年に小冊子「ななづくし」を発行しました。

転機となったのは、宮島口にあるお店「みやじまぐちの思い出SHOP epilo」にななづくしを置いてもらえたことで、オーナーの佐藤緑（さとう みどり）さんと出会ったこと。佐藤さんから「宮島のお店をよく知っているのでコーディネーターの仕事をしてみないか」と依頼を受けたのが、幅広い仕事を請け負うきっかけとなりました。現在は、地域の賑わいを活気づける、宮島口商店街の「みやじまぐちそぞろあるきマルシェ」のイベントコーディネーターとしても活動しています。

「イラストレーターをしているだけでは出会えない、いろんな人に出会えるので楽しいです」。

子育てとの両立

小学3年生と4歳の男の子を育てている洲上さん。「ずっと子どもがいて当たり前の環境でやっているので、あまり大変と感じたことはありません」。日中はなるべく家事をしないように心掛け、打ち合わせやイラストなどの仕事を行うそうです。子どもが帰ってきた夕方から、掃除や洗濯などの家事を行い、夜に残りの仕事をすることもあるそうですが、在宅で仕事をするからこそ、スケジュール管理をしっかりされていました。

洲上さんが手掛けた作品たち

モチベーションの秘訣

家にいるだけでは感じられない、社会とのつながりを感じられること、「ありがとう」と言われると自分でも人の役にたつことができたと思うことができるのが洲上さんのモチベーションにもつながるそうです。

新たに、ライターのイソナガアキコさんと「本と人の『あいだ』をつくる」をコンセプトに「あいだproject」という活動を始めました。第1弾として、はつかいち市民図書館で「本と本屋と図書館の未来予想図」を開催します。（関連記事：26ページ）

TOPIC 2

広島県わーくわくママサポートコーナー「職場体験プログラム」を市で初開催

1月21日～28日の間で、5日間のワーキングママ体験ができる「職場体験プログラム」が廿日市市で初めて開催されました。

職場体験プログラムを実施した「わーくわくママサポートコーナー」とは、広島県が広島市中区に設置している、働くことを希望する女性の相談コーナーです。家族とのコミュニケーション講座やビジネススキルアップ研修などの3日間のあいプラザでの研修と、実際に企業で就業体験する2日間のインターンシップで構成されたプログラムに、4人の女性が参加しました。インターンシップ先の㈱高宮運送で事務体験をした吉田めぐみさんは「子どもが4月から幼稚園に通うので、朝と夜の家事や子どもの様子などを試せたらと参加しました。久しぶりにテキパキと仕事される空間に入り、良い刺激を受けました」と話しました。

特集　仕事も生活も、両方大切だ。―終わり